

まちだ納税貯蓄組合連合会 優秀賞

『税金への誤解』

町田市立金井中学校 3学年 海老澤 翔

「税金」というワードを聞いて、ポジティブなことを思い浮かべる人は少ないと思います。ドラマのワンシーンをとってみても、税金の滞納通知を受けとって悩む人や、なるべく払いたくなくて申告を隠す人ばかりが目につき、僕の母親も五月、六月は税金の支払いが多くて大変だと言っているし、むかしむかしにさかのぼっていても年貢という名の税に農民が苦しめられているところしか思い浮かべることができないからです。

けれど、大人になっただけなら関係あることで、中学生の僕にはまだ関係のないことだと思っていました。しかし、この作文を書くにあたって税金のことを考えてみたら、僕にも直結する税金があったことに気づかされました。「消費税」です。それは、「払ってくださいね。」と通知があるわけでも、「これを買うならいただきますよ。」という断りもないのに、「コンビニでジュースを買う時、大好きなドラゴンボールのフィギュアを買う時でさえ払っている税金だったのです。そこで僕は、消費税が国の税金のどのくらいの割合を占めるのか調べてみました。調べて驚きました。国の収入の約五分の一もあつたのです。

僕も払っている消費税が国を支えている。そうと分かれば、今度

は何に使われているのか知りたくなくて、調べを進めるとさまざまなおことに使われていることが分かりました。僕たちが直接関係するようなことだけでも、奨学金の貸付のための「育英事業費」や学校の建設などに使用する「文教施設費」、公園などの整備のための「公園水道廃棄物処理等施設設備費」、医療費の補助などの「医療給付費」がありました。

その他にも、住宅建設のための「住宅都市環境整備事業費」や農地の改善などに使用する「農林水産基盤整備事業費」将来必ずお世話になるであろう「介護給付費」や「年金給付費」などの間接的に関わる税金もたくさんあり、たくさんの方が少しずつ払っている税金が色々なところに使用されていることがわかりました。必要としている人に適切にお金や物資が届くのなら税金払うのもいいことで、きちんと払っている人はかっこいいと思いました。

しかし、少子高齢化も深刻で、労働し税金を収めることのできる世代が減少しているという事実がありますし、新たなウイルスと戦ったり、国の赤字とむきあったり、僕たちは、なにかと大変な世代であると思います。

僕たちはこれからそのようなことに向き合い、考えていかなければなりません。明るい未来のためには不可欠なものだとそう信じて明日もおにぎりとジュース、お菓子も買って「消費税」をコツコツ払い続けます。